

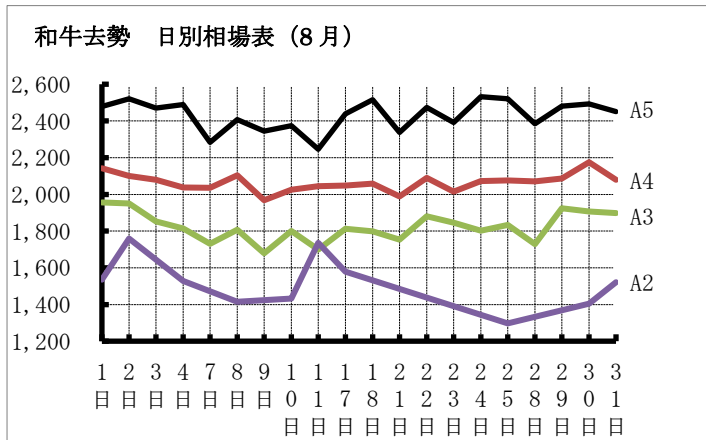
月刊しばうら

2023年9月号

牛肉営業部

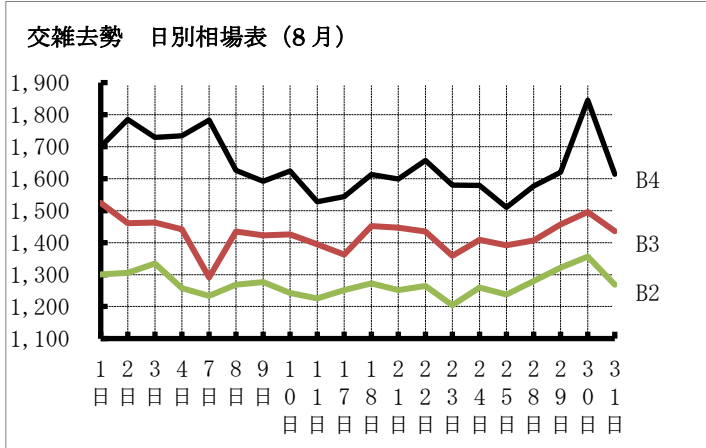
＜8月の相場動向＞

相場動向は大きく変わらず、全品種・全等級で前年同月比・前月比共に実績を下回る展開となった。各種物価高に伴う消費者の節約志向は顕著であり、牛肉需要の低迷が継続している。牛肉消費拡大要因のひとつである輸出についても、回復基調にあったものが7月の通関実績は数量ベースで前年比97.7%、金額ベースでも92.5%と前年割れとなった。訪日外国人の入国者数については6月に続き7月も200万人を超え232万人となった。8月には中国の団体旅行が解禁され、需要拡大の期待が高まったが、福島第一原発事故の処理水海洋放出により、中国人旅行者による消費行動が不透明な状況となっている。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,458円	-4円 99.8%	-96円 96.2%
A4	2,067円	-107円 95.1%	-86円 96.0%
A3	1,832円	-161円 91.9%	-103円 94.7%
A2	1,528円	-230円 86.9%	-190円 88.9%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,636円	-22円 98.7%	-45円 97.3%
B3	1,434円	-46円 96.9%	-37円 97.5%
B2	1,267円	-32円 97.5%	-19円 98.5%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	777円	-131円 85.6%	-193円 80.1%

＜9月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、7月の輸入量は前年同月比25.6%減の3万8,699tで、うちチルドは0.8%減の1万9,373tとやや下回った。フローズンは前年同月比40.5%減の1万9,326tと大きく下回った。農畜産業振興機構によると8月の牛肉輸入数量は、前年同月比29.2%減の3万7,900t (チルド11.5%減・冷凍39.2%減)、9月は23.9%減の3万9,500t (チルド1.1%減・冷凍35.0%減) で予測している。チルドは需要の低迷や現地価格の高騰により8月は大幅に、9月はわずかに下回ると予測している。また、フローズンは国内の消費低迷により輸入品在庫が多く、また為替の影響による減少もあり、大きく下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		7月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,285	7,500	123.8%
	米国	8,956	9,943	90.1%
	その他	1,132	2,091	54.1%
	合計	19,373	19,534	99.2%
フローズン	豪州	8,013	13,182	60.8%
	米国	5,338	8,786	60.8%
	その他	5,975	10,521	56.8%
	合計	19,326	32,489	59.5%

出典：食肉速報 単位：t

＜9月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による9月の出荷予測頭数は、全体で前年比100.1%の9万200頭で、品種別で見ると和牛は1.7%減の3万8,900頭、交雑種は2.5%増の2万1,100頭、乳用種は1.5%増の2万8,600頭と予測している。東京食肉市場の9月のと畜頭数は7,150頭を予定しています。

＜9月の牛枝肉相場見通し＞

燃料価格の上昇・高止まりは出口が見えない上に、円安も進んでおり、消費者の節約志向は継続し、国内の牛肉需要・消費意欲も低迷すると考えられ、当面は前年実績割れが続く状況が想定される。また、福島第一原発事故の処理水放出問題がより過熱すると、水産物だけでなく農畜産物にも影響が及ぶことも考えられ、周辺諸国への輸出が低迷する可能性もある。また今年は残暑が厳しく、9月も平年より高い気温となることが予想されており、スライス需要へのシフトは遅れると考えられ、最大の牛肉需要シーズンに向けての動きは遅くなるが見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,350~2,800	B4	1,500~1,700
A4	2,100~2,300	B3	1,350~1,450
A3	1,900~2,000	B2	1,200~1,300
A2	1,700~1,850		
乳牛去勢			
B3	900~1,000		
B2	750~850		

豚肉営業部

7月の全国と畜頭数は、前年同月比0.3%減の124万7,064頭となった。また7月の豚肉通関数量は7万4,924t (前年同月比9.8%減) と前年を下回り、前月比では8.0%の減少となった。内訳はチルドが3万294t (2.0%減)、フローズンは4万4,630t (14.5%減) となった。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
比	101%	90%	98%	110%	100%	106%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

7月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	14,351	98.2%	デンマーク	3,317	65.5%
カナダ	13,104	93.1%	スペイン	14,351	68.8%
メキシコ	2,838	128.2%	メキシコ	7,912	95.3%
			アメリカ	4,529	93.7%
			カナダ	3,565	89.3%
合計	30,294	98.0%		44,630	85.5%

単位：t

＜8月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	60,100	677	661	769
2日	54,500	689	676	506
3日	59,400	720	716	445
4日	59,800	782	783	842
7日	63,300	784	743	715
8日	62,800	694	658	760
9日	55,400	680	657	594
平均	59,329/日			662/日

出荷頭数は低調に推移し、全国と畜頭数は6万頭を割り込む日もみられた。荷動き自体は鈍いものの、相場は上昇し、一時的に上物相場が800円に迫る展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	62,100	638	617	724
11日	-	641	615	843
17日	68,600	654	636	852
18日	64,800	691	691	856
21日	63,000	709	690	679
22日	61,800	702	687	886
23日	59,400	725	715	696
平均	63,283/日			791/日

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初の盆休みとなったが、期待されていた旧盆商戦の消費は西日本に台風が上陸したことで苦戦を強いられ、外食需要は盛り上がりなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	63,100	735	720	631
25日	59,000	745	738	795
28日	60,800	756	734	670
29日	61,800	750	731	846
30日	52,400	781	756	612
31日	60,900	783	739	525
平均	59,667/日			680/日

全国的に猛暑が続き肉豚の生育に大きく影響を与え、出荷頭数は低調に推移した。全国と畜頭数は5万頭台の日もみられ、末端の荷動きは好調ではなかったが、頭数不足により相場は700円を超える展開となった。

＜9月の豚枝肉相場見通し＞

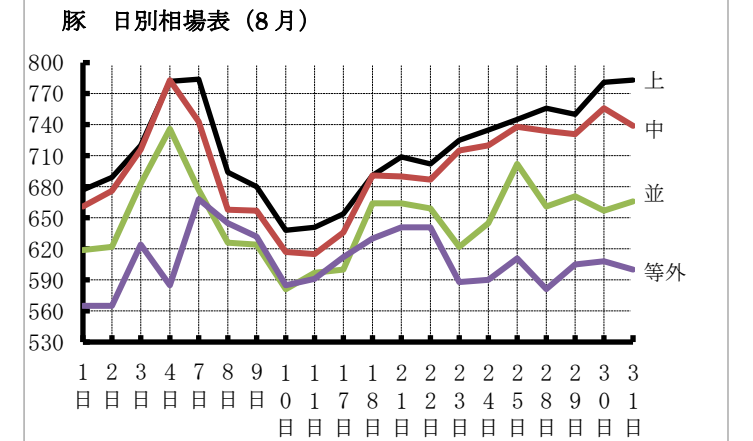
農林水産省による令和5年9月の肉豚出荷予測では132万8,000頭 (前年比98.0%) と予測している。当市場の9月集荷予定せり頭数は1万5,500頭、1日あたりでは約775頭を見込んでいます。農畜産業振興機構によると9月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万3,700t (同101.6%)、内訳は冷蔵輸入量が3万200t (同102.7%)、冷凍輸入量は4万3,500t (同100.9%) と予測。

冷蔵品輸入量は価格優位性のあるメキシコ産の輸入量が多いこと等から、前年同月をわずかに上回ると予測する。また、3ヵ月平均では前年同期をわずかに下回ると予測する。冷凍品輸入量は欧州産の現地相場は高騰していたものの、その代替えとして北米産の輸入量が多くなっていること等から、前年同月をわずかに上回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

気象庁が発表した長期予報によると、今年は全国的に平年より気温が高くなると予想されている。例年、9月中旬以降は朝晩の気温が低下し、出荷頭数が増えることで相場は落ち着く展開となる。しかし今年は残暑に加え、地域によっては疾病の影響が大きい為、出荷頭数が大幅に伸びることは期待できず、相場は底堅く推移すると見込まれる。

さらに佐賀県で国内88例目となる豚熱 (CSF) が発生し、感染が拡大すれば出荷頭数の減少により、需給のひっ迫感が強まる可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は680円前後、中物平均価格650円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127